

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	理念の理解を職員間で行っていききたい。過去の写真などの提供により、よりいっそうご利用者を理解し、その人らしく幸せな毎日を過ごすことができる支援を模索したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後も機会あるごとに確認しあい、理念を共有する意識を徹底したい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	今後も継続して取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	より一層柔軟な心を持ち、近隣者と心安い関係作りを図っていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	職員の時間調整と、理解を再検討し、少しでも参加できる体制作りを検討し、参加交流の実行に努めたい。

グループホームなごみ・茜棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護予防教室など開催し認知症の理解を地域の方々に啓蒙していく。ケアハウスとの合同のコンサートを実施し、チラシによる地域住民の皆様の参加を呼びかけ、車での送迎等を行った。	○	職員のレベルが達していないため、学習会などを活発に行いレベルアップをしたい。ケアハウス及び東雲棟との協力を基に今後もコンサート等を計画実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員が参加し、意見を出し合い、改めて日頃のサービスの確認、見直しに努めている。	○	今後も、全職員に運営会議結果報告を行い、現状把握と、より良質の支援をへ反映させたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族、地域住民の方、地域包括センターの職員等、幅広い人が参加し、意義や役割を理解して積極的に参加してもらえるように働きかけている。改善点は即改善するように努めている。	○	今後も全職員に、会議結果報告を行い、現状把握とより良質の支援へ反映させたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	居宅支援事業所（本部）で窓口となって市町村担当者と連携をとり、情報を提供している。	○	情報をよりいっそう身近に取り入れたサービスの提供を実施していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	情報を常に察知し、機会あるごとに、日々のカンファレンス時に話題として提供している。	○	講習会等に積極的に参加し、最新の情報を得る機会を持ち、必要な支援提供が出来るようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に、尊厳・尊重を十分理解し、身体的虐待、精神的虐待はもちろんのこと、言葉遣いには細心の注意をしている。不適切な言葉遣いは、即注意しあっている。	○	常により良い職員の間関係作りに努める。特にメディア広報時は、即話し合い、当ホームの見直しをし、再度意識向上に努めていきたい。

グループホームなごみ・茜棟

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、各々の契約書・同意書を説明読み合わせをし、ご理解いただき書類をとりかわしている。質問しやすい雰囲気作りに努めている。	○	現状を継続し、できるだけ時間をとり納得いくまで説明をしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも、意見・相談・不満・苦情の言える雰囲気作りに努めている。派遣相談員を招き、ご利用者が意見を言える機会を設けている。派遣相談員とも和やかに話しができる環境作りをしている。	○	今後も和やかな雰囲気作りに努め、いつでもなんでも話せる環境を整えていきたい。施設に対する感想や意見を今後のケアに生かしていきたい。報告書の気付きを職員全員で現場に生かしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	請求書にお便りや金銭の出納伝票等をつけ月1回定期的にだしている。一人一人のアルバムを作成している。日常特に報告を必要とする事項は電話で報告している。ご家族等が訪れた機会に定期的な報告、個別な報告を行っている。金銭管理は月1回の報告と面会時の確認を行っている。	○	現状の継続を行っていききたい。食事、活動の様子を月ごとに掲示板に掲示していききたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人としてのアンケートを年1回行っており、その検証を行い、職員の意見交換を実施し、改善すべき点は反省と改善を行っている。また、ホーム内にご意見箱を設けその旨の説明をし、気軽に投函できる場を設けている。苦情や不満を言い言いだし難いということを理解し職員側から、意見等を聞く努力、場面作りをしている。	○	現状の継続を実施していききたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレス等で自由に意見交換し、改善に反映させている。	○	今後も何でも話せる機会を設け、建設的な運営に反映させていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	三名体制に努力している。	○	職員補充が必要な時は、早急に本部に連絡、要望を行い、サービスに支障がないように努めたい。

グループホームなごみ・茜棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今まで、職員の異動・退職によりご利用者の不満や不穏を感じることはありませんでした。</p>	○	<p>なじみの関係が崩れるので異動はないほうがのぞましいと思われ、信頼関係の構築に努めていきたい。見守りと思いやりを徹底していきたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を行っており、複数日を設け全員参加の機会を作っている。参加後はレポート提出を実施している。朝礼時挨拶の徹底や、「職場の教養」の朗読など継続的な活かし方を実施している。</p>	○	<p>今後も継続して実施していきたい。カンファレスでよりよいケアを話し合い認知症に対するよりよいケアを学んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会等の参加、講習会に参加している。</p>	○	<p>交流できる機会には、積極的に参加していきたい。活動の中から、より質の高いサービスの提供にむけて学びたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常ストレスの原因を見つけ、責任者に報告している。法人内で苦情申し立て委員会を設けている。</p>	○	<p>職員親睦の食事会等の機会を設け、職場を離れリラックスできる時間を過ごし、お互いの理解を深めていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>全員参加のカンファレンスを生かして、職員の提案の中から、実施可能なことは実施してみて、その上で継続または変更し、意欲の向上を試みている。</p>	○	<p>ねぎらいの言葉や感謝の言葉を伝えることを継続していきたい。職員の思いをよく聞き、できる範囲で考慮を図っていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から情報を多くいただき、生活暦を尊重し、その人の生きてきた環境を理解して、ご利用者から、困っていること、欲していること等を模索し、信頼関係を築く努力をしている。	○	今後も継続して実施していきたい。ご本人が不安のない心地よい生活の場となるよう努めたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族との関係をよく聞き、支援の参考にしている。面会のおり、時間の許す限りしっかり傾聴している。	○	今後も継続して実施していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番幸せで必要な支援は何かをケアマネを中心に話し合い、統一した支援を行っている。言葉掛け、レクレーション等の工夫で、ご利用者への対応を図っている。また必要であれば、他サービスにはどんなものがあるか等の話をしている。	○	今後も継続して行っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が面接にいたり、事業所にきてもらう等して、ご本人が職員やサービスの場に徐々に馴染めるようにしている。すきなこと、嬉しい事を見出し、話やすく、安心して過ごせる環境作りに努めている。他ご利用者との関係作りに職員が間に入り話をする等して努めている。	○	ご家族等と十分に話し合い、ご本人とご家族にあった、各々の利用開始に努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活暦を尊重し、その人の生きてきた環境を理解して、ご利用者から、困っていること、欲していること等を模索し、信頼関係を深める努力をしている。出来る限りその人が生きてきた環境を理解し、今を幸せに思える想いを傾聴し、共感の中から支援している。	○	グループホームという空間の中で不自由な思いもあることを常に忘れず、一人一人を感じる幸せ・楽しさをより多く持っていただけるように支援していきたい。

グループホームなごみ・茜棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報からその人の過去をさぐり供によりそっていく。面会、外出、外泊は自由に行っている。	○	生活暦を尊重し、出来る限りその環境に近づけ、ご家族の思いを傾聴・共感し、ご利用者の認知の現状を伝えていく中で、ご本人の思いを伝え理解をしていただいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	グループホームでの生活をお知らせする。外出、外泊の時の様子を話していただいている。	○	お便りをだしている。写真を送ったり、アルバムを作り面会時見ていただく。茜新聞の発行をした。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出の制限はないため、以前の馴染みの関係の方々が都度都度訪問してくださり、話を聞いてくださっている。施設からも積極的に案内を行っている。	○	引き続きこれまでの馴染みの関係を継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が会話をしている時はその時間を大切にしよう見守りを行っている。また、ご利用者同士が関わりを持てるように状態観察しながら、一緒にお茶を飲んだり、カレンダー作り、お菓子作り等を行っている。	○	お互いに相手を思いあい、支え合えり関係を築くよう、職員が雰囲気づくりをしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も関わりを希望するご利用者や家族には、施設での行事や催し案内するとともに、随時相談を受け付けている。入院になった方には、お見舞いに行っている。	○	今後もご家族やご利用者が訪れやすい雰囲気を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の言葉や行動を真摯に受け止め、一人一人の希望や意向をしっかり受け止めるよう、カンファレンスを行っている。	○ ご利用者本位の視点にたって検討する大切さを、職員間で再度確認していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族との普段の会話や関係の中、今までの情報から、把握するように努めている。またそれらの情報をカンファレンス等を通じ職員全員が共有するようにつとめている。	○ 入居時の情報をしっかりいただく。公共関係の情報もいただく。得られた情報を今後のための記録として残していける体制を整えていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者一人一人について、カンファレンス等での話し合いを通じ、現状の把握と情報の共有に努めている。	○ できる力、わかる力に注目した視点から、ご利用者の現状を総合的に把握していける方法を検討していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に訪れた機会等に現状の状況を伝えるとともに、家族の意見や意向を聞き相談しながら、ケアに反映させている。カンファレンス等で職員が意見を出し合い話し合いをし計画をたたえている。	○ カンファレンス等を積極的に活用し、ご本人にとってなにが必要かを話し合っていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認知度、ADLの変化が見られた時はご家族に連絡している。受診して医師の指示を仰いでいる。必要に応じて見直ししている。	○ しっかりと暮らしを支えられる介護計画を作成できるようにとりくんでいきたい。

グループホームなごみ・茜棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノートなど活用し情報を共有している。	○	さらに具体的で解かり易い記録とし、計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊、移送のサービスを通じ、柔軟なサービスを行っている	○	今後も継続していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員、ボランティア、月1回の市の派遣相談員の訪問を通じ情報交換や協力を行っている。年2回、ケアハウスと合同で防災訓練を行い、協力体制を築いている。	○	今後も地域資源の活用を考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外出が困難なご利用者については、訪問理美容サービスや、パンの訪問販売をとりいれたりしている。	○	必要に応じ、ご本人ご家族と相談しながら、他のサービスの利用も考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの相談に参加してもらうことで協議している。	○	今後も情報交換を活発にしてゆきたい

グループホームなごみ・茜棟

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>希望があればこれまでの医療機関での受診ができるように必要に応じて支援していく。訪問診療の開始により、週1回医師看護師の巡回があるので、健康管理に努めていきたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>医療機関との連携を深めながら支援を継続したい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今後も継続していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院時には他のご利用者からの「一言カード」を作り職員がお渡しにいきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>可能な限り早期から方針を共有していきたい。終末期ケアについての勉強会をしていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ご利用者が充実した日々をおくれるように、自分達に出来ることを考えていきたい。</p>

グループホームなごみ・茜棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	可能な限りの情報を提供するとともに、相談を行い、ご本人の一番よい方向をみつけるように努めている。	○	内容の濃い情報提供を行いたい。法人として、ターミナルケアも取り入れていく予定。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が、ご利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けや対応を行うようにしている。	○	カンファレンス等の機会に繰り返し徹底していききたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段のかかわりの中でご利用者が何を希望しているか把握するように心掛けている。	○	勉強会、研修会を通してコミュニケーションスキルの向上を目指し、思いや希望を表せるように積極的に働きかけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、それにとらわれ過ぎることなく思い思いのペースで過ごせるように努めている。	○	今後も一人一人の生活のリズムを大切にして、希望にそった支援をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向を大切にしている。希望に応じ美容室に出向き、パーマやカットを行っている。	○	今後も髪型や服装はご本人の希望に沿っていききたい。

グループホームなごみ・茜棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>可能な限り利用者のできる力の発揮や、参加の場となるようにつとめていきたい。お茶つぎ、配膳、台ふきはやっていただいているが、野菜を切ることはしていない。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>嫌いな食べ物や食べられない食品の代替品等、周囲の利用者への配慮を含めて、検討していきたい。行事の時はビールやジュースを提供している。糖尿病の方がいるので、甘味物に感じられない時がある。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>一人一人の排泄パターンを知ることで、リハパンから尿とりパット、尿とりパットから失禁パンツへ変えられた方もいるのでこれからも努めていきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>話をしたりしながらゆっくり入浴を楽しんでいただいている。また一人一人入浴することでその方好みの入浴方法で入浴することができているのでこれからも行っていきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>食後はゆったりとした団欒の時間を過ごせるように支援している。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>さらに一人一人の生活歴や希望に注目して支援していきたい。</p>

グループホームなごみ・茜棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金は事務所で預かっていて、個々の出し入れは管理しているが、各々で財布を持っている人もいる。管理が難しい方は買い物に同行していただき買い物を楽しんでいただいている。	○	ご家族とも相談の上、買い物に出かけた場合には、お財布を持ってもらい支払いまでご本人ができるように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に行きたい人を誘って近所へ花を見に行ったり、花を摘みに行ったりしている。車椅子等を利用し、多くの方が戸外で気持ちよく過ごせるように配慮している。	○	車で出掛ける際も緑の多い場所を通り季節を感じていただいている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族とともに美容院やドライブや食事へ行くことがある。	○	ご家族と相談しながら個別に対応していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとり、電話も自由にできるよう要望があれば、対応している。年賀はがき、暑中見舞いのはがきを書いている。	○	今後も継続していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に訪問時間を設けず、家族や友人などいつでも訪問できるようにしている。居心地よく過ごせるように、挨拶、お茶の用意など配慮している。	○	アルバム等をみていただきホームでの生活を見ていただいている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	○	目配り、気配りに心掛けている。

グループホームなごみ・茜棟

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>居室に鍵はついていず、鍵はかかっている。外部との出入り口は、職員の配置や建物の構造、ご利用者の状況を考慮の上、現在は鍵をかけている。</p>	○	職員間で利用者の安全を確保しつつ鍵をかけないで過ごせるか話合っていきたい。
67	<p>常に人数を確認していく。職員はご利用者の所在、様子には気を配っている。夜間は状況を確認しやすい位置に待機している。</p>	○	職員がその場を離れる際もお互い声を掛け合っている。また情報交換をしている。
68	<p>はさみナイフ等、個別に状態に応じて、対応している。保管をしている方、お任せしている方がいる。利用者各々に応じた管理や保管の方法を常に話し合い決定し職員が理解している。</p>	○	今後も継続していきたい。
69	<p>目の不自由な方、足のふらつきのある方等を含め常に歩行時立ち上がり時等は注意して見守りしている。体操、散歩等を通じて、転倒予防をしている。法人全体としても情報を共有し対策を講じている。</p>	○	ヒヤリハットを活用していきたい。見守りの強化・徹底に努めて転倒予防を行っていきたい。
70	<p>発生時を想定して、日を決めて訓練している。申し送り時に各役割の確認をしている。口頭訓練をしている。</p>	○	法人内の病院や地域の消防署などにも働きかけて実施していきたい。定期的な訓練を数多く行っていきたい。
71	<p>同一敷地内のケアハウスと合同で防災訓練を行っている。</p>	○	より一層地域の人々の協力が得られるように取り組んでいきたい。

グループホームなごみ・茜棟


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測できるリスクについては、機会あるごとにご家族に説明し、話しあっている。日々の状態をご家族にお知らせしている。	○	今以上に普段の関係作り心掛けリスクに対応する。ご家族の理解を深めていきたい。また積極的にホームの方針を示していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック。入浴時着替え時にも皮膚の様子観察を行っている。リスク、毎日の状態をご家族に伝えている。	○	今後も早期発見に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、要領については、理解している。飲み忘れ、薬が不足していないか注意を払っている。また日常の記録を医師に伝え服薬調整をしている。	○	より、一層医療機関と連携し支援をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すために食事や飲み物に工夫している。腸に良い食品を取り入れ予防対応している。腸の蠕動運動のため、腹圧運動・歩行運動等を取り入れている。	○	ご家族と主治医と相談しながら行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き・うがい、義歯洗浄、土曜日はポリデントを行っている。	○	継続して行っていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量等に注意している。お茶以外の時間にも水分がとれるように麦茶等を作り置きしている。	○	病院と連携し支援していきたい

グループホームなごみ・茜棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがあり、実行している。また、予防として、うがい・手洗い・消毒を行っている。	○	法人内で指導があり、実行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具等の衛生管理、調理する人の衛生管理・健康管理、安全な食材の使用に努めている。	○	今後も継続し実行していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	物を沢山置くのではなく、広々とした玄関にしている。緑を置いたりして、親しみやすく暮らしの場所として威圧感のないようにしている。	○	建物の周りにも花を植え家庭的な雰囲気がもてるように配慮している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには生け花や観葉植物を置き、廊下の壁には古典的なのれんを掛けるなど、落ち着いて過ごせるように配慮している。一人一人に気配りをして居心地よく過ごせるようにしている。	○	午後になると共用スペースに西日がいり、室温の上昇、眩しさ等があるので対応を検討している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にソファを置き、一人でも、気の合ったご利用者同士でもご利用できるようにしている。	○	精神面も考慮し座る場所に気を配っている。

グループホームなごみ・茜棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	花を飾ったり、写真を飾ったり、本人の好みを大切にしながら環境作りが行えている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○	今後も継続して行っていく
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○	変化にできるだけ早く対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○	認知度変化にできるだけ早く対応していきたい
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○	今後も活用していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームなごみ・茜棟

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方にとって最も大切なことは「この場所は安心の場であり、この人は安心を与えてくれる人である」ということです。
 室内外に緑や花を多くし、暖簾などで季節感を出し、潤いと癒しと和み、優しさのあふれる環境の中で心を大切にさせて頂く。
 職員は接遇を大切に、利用者にとって、大事にされているという心地良い幸せを感じて頂く全てのかかわりにより、心を大切にさせて頂く
 →「安心して暮らせる日常の場を提供する」
 認知症予防の為の脳の活性化と、転倒予防の為の運動を日常に入れている。
 ご家族に日々の様子をお知らせする為、個々のアルバムとノートを作り、来られた時に見て頂く。ご家族にとっても様子がわかることが安心して利用されることになる。
 ご家族と情報を共有して、利用者様を支援させて頂くことを大切にしている。